

## 2018 年度 先進情報処理メカトロニクスクラスタ 発表者向け資料（前期）

### 目標

1. 学会形式での発表と質疑応答ができるようになること。
2. 発表とそれに対する質疑応答を通して、先進情報処理メカトロニクスに関する意見交換ができるようになること。

### 発表内容と時間

- 卒業研究の内容を発表する。
- 発表時間は 10 分。質疑応答時間は最大 10 分とする。

### 発表準備

- 発表のチェック：指導教員に申し出て、発表 1 週間前までにチェックを受けておくこと。
- チェックポイントは次の通りとする。
  1. 発表時間が十分に活用されているか。（超過してはいけなく、極端に短すぎてもいけない）
  2. 声の大きさ、スピードは適切であるか。
  3. 関連研究紹介について著者やタイトルだけでなく内容が示されているか。
  4. 研究背景、目的が明示されているか。
  5. 最後の「まとめ」について、最初に提示した研究背景と目的に対応した結論が導かれているか。
  6. 見やすく、理解しやすいスライドを提示できたか。
  7. 関連研究の論文について十分に理解ができているか。（質疑応答に対応できるか。）
  8. 発表練習を繰り返し行っているか。（教員のチェックが初めての発表練習ではいけない）

### 質疑応答

- 大ゼミ時間内の質疑応答への対応 大ゼミ時間内の質疑応答は、自分の考えを論理的にまとめ言葉を選ぶ訓練である。相手の質問の意味を適切に捉えるよう努力し、適切な回答を組み立てる。回答するために十分な知識を持ち合わせていない場合は、後日の回答とする。
- 回答書の作成（大ゼミ時間後） 大ゼミ時間内に質問があったものを含めて全員分の質問は、大ゼミ終了後に司会を担当した教員から渡される。渡された質問を類似しているものごとに分類・分析した上で、発表 1 週間後までに回答を作成すること。回答は世話役教員から Web ページ掲載などの手段により質問者へフィードバックされる。

### 補足事項

1. 発表については、大ゼミ時間内にクラスタ教員から講評を行うが、成績評価の対象とはしない。
2. レジメ配布は行わないこと。（手元に資料がなくても理解できる発表とすること。）
3. 発表者はプロジェクタ操作用のリモコンなどをあらかじめ教務係より借り、質問票を聴講者数準備しておくこと。
4. 質問票は回答を作成した後、すみやかに世話役教員へ返却すること。

## 回答書の作成について

回答書に必要な項目

1. 発表タイトル
2. 発表者名
3. 発表日
4. 質問とそれに対する回答を箇条書きにしたもの

質問の取り扱い

ひとつひとつの質問ごとに回答を作る必要はなく、質問などをカテゴリーに分けて、回答を作るのが適切である。

回答の作成

学会発表時の質疑応答を想定して、簡潔かつ正確な言葉を選ぶことを期待している。もちろん、簡単な数式や図が必要であれば、数式や図を示しても良い。

回答書の作成と提出

PDF ファイルとして出力し、世話役教員宛にメールで提出する。

なお回答書のファイル名は下記のように学生番号を含んで作成すること。

学生番号が 1 番の場合： 2017z-60180001.pdf

## 2018 年度 先進情報処理メカトロニクスクラス 聴講者向け資料（前期・後期）

### 目標

1. 学会形式での発表を聴講し、適切な質問ができるようになること。
2. 発表に対する質問を通して、知識を自ら深めることができるようになること。

### 発表時間と質問準備

- 発表時間は 10 分。質疑応答時間は最大 10 分とする。
- 聴講者全員に対して予め質問票を配布するので、発表に対する質問はすべて質問票に書き留めておく。

### 大ゼミ時間内の質問

- 発表に対して、前期のうち最低 1 回、後期のうち最低 1 回、大ゼミ時間内に口頭での質問を行うこと。※必要であれば自分が質問済みであるか各自記録しておくこと。
- 1 発表者あたりの質問数は 2 件程度（1 人の質問者による質問は 1 件とするので 2 人まで）とする。

### 大ゼミ時間後の質問回答

- 発表中に作成した質問票は回収し、発表後 1 週間以内に発表者により回答書が作成される。作成された回答書は Web ページ掲載などによりフィードバックを行う。

### 成績評価

- 成績評価は、前期中に大ゼミ時間内の質問および質問票の内容にもとづき行う。

### 補足事項

- 聴講に集中しメモをとり質問を組み立てる訓練を行う目的から、発表者は配付資料を用意しない。
- 大ゼミ時間終了後のレポートは課さない。

## 2018 年度 先進情報処理メカトロニクスクラスタ M2 中間発表会

### 目的

研究の進捗状況や修了までの研究計画を他の教員に聞いてもらう機会を設けることにより，修士修了にふさわしい内容であるかどうかを早めに判定してもらい，内容的に不備があればアドバイスをもらう．したがって，本年度に修了見込みの院生は，必ず発表するのが原則である．発表および質疑応答の内容が十分でない場合は再発表を指示する．発表の評点は，システム工学講究の成績に反映する．

### 発表時間

- プレゼン 10 分＋質疑応答 10 分＝合計 20 分（＋交代 1 分）
- 第 1 鈴：8 分，第 2 鈴：10 分，第 3 鈴：20 分

### 発表資料（PPT）

- 研究の位置づけ（関連先行研究と比較し，研究の新規性や有用性を述べる），研究の目的（何を明らかにしようとするのか），研究内容（これまでに何を行ったか），今後の研究計画（修士修了時までの達成目標）を必ず盛り込むこと．
- 発表時間を十分活用すること（時間超過や，極端に短すぎてもいけない）．
- 論理の飛躍や，目的と結論の間に齟齬がないか十分に吟味すること．

### 配布資料

- 発表者が事前に教員に配布する．最初の講演の開始時刻までに配布を終えること．
- 原則として A4 判，片面あたり発表スライド 6～8 枚程度を白黒で印刷する．両面印刷推奨．文字が小さくならないよう，用紙の空間を有効利用して印刷すること．（PPT 印刷時に，「配布資料」で印刷するのではなく，「スライド」のまま，プロパティをクリックし「N アップ」のところで，「8 アップ」を選択して印刷するとよい）
- 資料は，教員数＋ $\alpha$ 用意する．

### 発表

- 最初の発表の 5 分前までに会場に集合し，最後の発表まで聞くこと．
- 開始前の休憩時間に PC を接続し，PPT の表示テストを事前に行うこと．
- 研究室で同じ PC を使うなど，発表者の交代が短く済むように工夫すること．

## 2018 年度 先進情報処理メカトロニクスクラス大ゼミスケジュール（前期）

### ■ スケジュール

	発表者、内容				司会
4 月 10 日	ガイダンス				八谷
4 月 17 日	井堰 啓太	今川 涼介	長谷川 大陽	櫻井 渉	小川原
4 月 24 日	尾西 一樹	坪井 和広	前田 一成		徳田
5 月 1 日	射手矢 和真	野村 雅也	広瀬 僚平	箕土路 拓也	中村
5 月 8 日	松本 侑也	安田 圭治	岡田 泰修	淵上 和希	長瀬
5 月 29 日	岸村 直輝	鯨井 博之	小柴 康平		中嶋
6 月 12 日	古井 湧介	前田 孝次朗	田上 浩大	堀江 英任	丸
6 月 26 日	勝山 颯人	神田 睦月	中田 明洋		土橋
7 月 3 日	堂下 綺斗	原田 稜	鉢木 惇也		松井
7 月 10 日	細川皓平	岩橋 知久	東田 朋己		八谷